

国際化学肥料ニュース（2018年7月）

肥料業界の2018年7月動態

* 先週、インド RCF 社の 4 万トン DAP 入札結果が発表された。最低応札価格 CFR434 ドル/トンで、インド側の予定価格（CFR430 ドル/トンまで）を超えた。RCF 社によって入札自体がキャンセルされた。インドは来年 3 月までに約 250 万トン DAP を輸入する計画であるが、実現されない恐れがある。

* 7 月第 1 週にりん安の取引が盛んに行っている。取引数量が約 40 万トン、そのうちインドだけで約 25 万トンを占める。ほかに、チュニジアの GCT 社が 2 か所に 3.5~3.7 万トンの DAP の輸出契約を締結し、中国も東南アジアに FOB420 ドル/トンで DAP を輸出した。パキスタンが CFR425 ドル/トンで中国から 4.6 万トン DAP を購入した。アメリカの Mosaic 社が南米に FOB420 ドル/トンで 1 万トン DAP を輸出し、ロシアの EuroChem 社もブラジルに CFR440 ドル/トンで粒状 MAP を輸出した。ウルグアイも 2 万トン MAP の輸入を決めた。

この様子から 7 月のりん安価格が高めで推移し、8 月も安定する見通しである。

* 7 月第 2 週（7 月 9~15 日）もりん安の取引が盛んである、この週に成立したりん安の取引状況は下表に示す。

製品	買手	輸出国と売手	輸出先	数量(トン)	価格(ドル/トン)	船積
MAP	TBC	アメリカ Mosaic	ブラジル	10,000	CFR 447	8 月
MAP	TBC	ロシア EuroChem	ブラジル	10,000	CFR 450	8 月
MAP	TBC	モロッコ OCP	ブラジル	3,000	CFR 450	8 月
MAP	TBC	メキシコ Ameropa	ブラジル	5,000	CFR 447	8 月
DAP	TBC	サウジアラビア SABIC	インド	30,000	CFR 430	8 月
DAP	TBC	サウジアラビア Maaden	インド	40,000	CFR 430	7 月
MAP	Trader	モロッコ	アルゼンチ	45,000~	FOB 430	8 月
DAP		OCP	ン	50,000		
MAP	Various	モロッコ OCP	アメリカ	55,000	不明	8 月

DAP	Various	モロッコ OCP	アメリカ	55,000	不明	8月
DAP	Honeyee	中国 YUC	バングラデ シュ	40,000	FOB 420	8月
DAP	IFFCO	中国 Amerope	インド	40,000	CFR 431	7月
DAP	Kribhco	中国 Transglobe	インド	55,000	CFR 430	7月
DAP	GSFC	中国 Aries	インド	125,000	CFR 430~432	7~8月
DAP	Fauji	オーストラリア Quantum	パキスタン	50,000	CFR >430	7月

- * モロッコの OCP 社はインドとの間に第 3 四半期の粗りん酸基準価格を決定した。CFR758 ドル/トン (100%P2O5 換算、以下同) で、第 2 四半期の CFR720 ドル/トンより 38 ドル/トン上がった。
- * オーストラリアはメキシコに 3.5 万トン MAP を輸出する予定である。船積みは 7 月中旬。これはオーストラリア今年度 2 回目のりん安輸出である。近年、オーストラリアはりん鉱石の開発とりん酸肥料の生産に力を入れて、2020 年以降りん安の輸出国を目指している。
- * ノルウェーの Yara 社はロシアの Uralchem 社と Acron 社との間に 7 月の塩化加里 FOB 価格 257~258 ドル/トンを合意した。一方、ロシアの Acron 社は FOB270 ドル/トンでエジプトの OCI 社に 1.1 万トン塩化加里を輸出した。
- * 先月末、エジプトの尿素メーカー Abu Qir Fertilizer 社が行った尿素的販売入札について、開札した結果、応札価格が FOB 小粒尿素 260 ドル/トン、大粒尿素 280 ドル/トンしかなく、Abu Qir Fertilizer 社の予測より大幅下回る。Abu Qir Fertilizer 社は「納得できない」とのコメントを発表したが、キャンセルするか否かが決定されていない。
- * 噂によれば、インドは 7 月 15 日頃に新しい尿素購買入札を行う予定である。数量未定、8 月 31 日までの船積みという条件である。7 月末までにイラン産尿素的在庫量が 20 万トンあり、8 月の生産量を入れると、30 万トン以上の供給能力がある。従って、インドの尿素的入札にはイラン産廉価尿素的の独壇場になる可能性が高い。
- * 中国の化学肥料産業が厳しい状況に陥っている。今年上半期の化学肥料生産量、消費量及び輸出量が大幅減少した。中国国家统计局のデータによれば、1~3 月の化学肥料生

産量（N、P₂O₅、K₂O 換算、以下同）が 11.1%減の 1306.9 万トン。そのうち窒素肥料が 12.4%減の 853.1 万トン、りん酸肥料が 7.2%減の 338.7 万トン、加里肥料が 12.8%減の 113.6 万トン。

一方、1～3 月の化学肥料消費量が 7%減の 1355.5 万トン。そのうち窒素肥料が 8.1%減の 788.3 万トン、りん酸肥料が 4.2%減の 292.5 万トン、加里肥料が 7%減の 273.1 万トン。国内化学肥料価格が高騰し、販売量の減少の最大要因となっている。6 月 18 日現在の化学肥料卸価格が昨年同期より 13.77%高くなり、そのうち尿素の卸価格が 18.13%、DAP の卸価格が 6.21%、塩化加里の卸価格が 10.39%、NPK 化成肥料の卸価格が 8.26%とそれぞれ高くなっている。

輸出輸入についても、1～3 月の化学肥料輸出量（実物量）が 22.3%減の 383 万トン、そのうち尿素 76.3%減の 29.5 万トン、DAP 15.7%減の 64.9 万トン、MAP 29.6%減の 33.8 万トン、化成肥料 33.2%増の 30.5 万トン。1～3 月の化学肥料輸入量が 2.7%増の 333 万トン、そのうち塩化加里 4.4%減の 274.2 万トン、化成肥料 47.5%増の 37.2 万トン、尿素 8.6%減の 4.7 万トン、硫酸加里 103.3%増の 1.8 万トン。

* 中国税関の速報によれば、6 月の中国化学肥料輸出量が 27.0%増の 246.3 万トン、金額としては 27.1%増の 7.53 億ドル。その内訳は尿素 14 万トン、DAP 94 万トン。一方、6 月の化学肥料輸入量が 55.1 万トン、金額としては 1.64 億ドル。その内訳は塩化加里 35 万トン、NPK 化成肥料 12 万トン、尿素 5 万トン。1～6 月の化学肥料輸出量が 15.2%減の 958 万トン、金額が 2.7%減の 26.3 億ドル。その内訳は尿素輸出量が 74.2%減の 71 万トン、DAP 輸出量が 9.9%増の 249 万トン、NPK 化成肥料輸出量が 1199%増の 9.4 万トン。一方、1～6 月の化学肥料輸入量が 19.1%増の 555.8 万トン、金額が 27.6%増の 15 億ドル。その内訳は塩化加里が 13.6%増の 445 万トン、NPK 化成肥料が 29.4%増の 73 万トン。

* ロシアの PhosAgro 社の COO Andrei Guryev 氏はアメリカの Mosaic 社が 2017 年末にフロリダ州の Plant りん安工場を閉鎖してからアメリカ向けのりん安輸出が急速に拡大したと述べる。2018 年 6 月末までにすでに 50 万トンを輸出し、年内にさらに 40～50 万トン輸出するだろうと予測する。

一方、ウクライナが 5 月 25 日から始まったロシア産化学肥料に対する制裁について、PhosAgro 社はりん安と化成肥料の輸出を控え、代わりに EU と南米に輸出を拡大する計画である。2017 年ロシアがウクライナに約 360 万トン化学肥料を輸出したが、2018 年がその半分以下に減少するだろう。反対にブラジルとアルゼンチンが 2018 年からロシア産化学肥料に対する関税が撤廃して、PhosAgro 社のブラジル向けの肥料輸出量が 20%増え、アルゼンチン向けの輸出量も大幅増加した。

* ヨルダンからの報道によれば、ヨルダンの APC 社が 2018 年上半期の塩化加里生産量が

120万トンに達し、半期として史上最高を記録した。下期も120万トンの生産を予定して、年間240万トン塩化加里の生産量を達成する。

* 2018年の塩化加里輸出／輸入データ

国	種 類	期 間	輸 出 量 (トン)	輸 入 量 (トン)	増 減
カナダ	塩化加里	2018年1～5月	8,750,000		5%
ベラルーシ	塩化加里	2018年1～5月	4,560,000		4%
チリ	塩化加里	2018年1～5月	294,699		-45%
アメリカ	塩化加里	2018年1～5月		5,500,000	2%
ブラジル	塩化加里	2018年1～6月		4,300,000	1%
インドネシア	塩化加里	2018年1～4月		1,110,000	-4%
ベルギー	塩化加里	2018年1～4月		496,182	0%
タイ	塩化加里	2018年1～5月		382,140	1%
フランス	塩化加里	2018年1～5月		348,000	-9%
ポーランド	塩化加里	2018年1～4月		301,118	-20%
スペイン	塩化加里	2018年1～5月		284,903	1%
日本	塩化加里	2018年1～5月		210,861	-17%
オランダ	塩化加里	2018年1～4月		197,603	-25%
イギリス	塩化加里	2018年1～5月		173,040	-38%
トルコ	塩化加里	2018年1～5月		130,525	-8%
メキシコ	塩化加里	2018年1～5月		112,992	-27%

* 7月中国がロシアから5万トン、ウクライナからも5万トン計10万トン尿素を輸入した。また、8月もイランから5万トン尿素を輸入する予定で、今年1～6月だけでイランから計5船25万トン尿素を輸入した。ほかにバーレーン、ロシア、ウクライナ、トルキスタン、サウジアラビアからも輸入した。ただし、7月から中国国内の尿素価格が下落傾向で、輸入尿素の大部分が最終的に再輸出されるとの予測がある。

* 7月中旬、パキスタンは通貨ルビーの下落によりCFR435ドル／トンの採算が合わず、契約したDAPを解約した。インドも採算の原因で100万トンのDAP輸入契約を破棄した。従って、リン安の需要は西半球に集中している。7月16～21日の1週間にブラジルはCFR450ドル／トンでロシアEuroChem社から2～2.5万トンMAP、CFR445ドル／トンでモロッコOCP社から2.5～3万トンDAPを購入した。また、ロシアEuroChem社がFOB407ドル／トンでアメリカに1.5万トンMAPを輸出した。中米のIncofe社が中国からFOB418ドル／トンで1.5万トンDAP、FOB390ドル／トンで8000トンMAPを購入した。8月のリン安市況が安定するだろうという予測である。

- * カナダのNutrien社は年末にアメリカカリフォルニア州Geismar工場のリン安生産ラインを停止し、リン安とリン酸塩の生産から撤退する。その代わりに新規プラントを設置し、尿素硝安液肥（UAN）を生産する。2018年1月、PotashCorpとAgrium社が合併してNutrien社になってから事業の見直しを続けている。すでにアメリカにあるRedwater工場とAlberta工場のリン安生産ラインを停止し、硫安工場に改める発表があった。

合併前、2017年1～6月PotashCorp社が71.6万トンリン酸肥料、51.6万トン飼料と工業用リン酸塩製品。合併後、不採算のリン酸塩事業の見直しが行い、フロリダ州とノースカロライナ州以外のリン酸塩工場を順次にほかの肥料製品工場に改造する計画である。

- * 7月21日、インド政府は肥料用輸入粗リン酸の商品とサービス税（GST）の税率を12%から5%に引き下げ、当日発行すると発表した。その起因は今年4月から粗リン酸の輸入価格の高騰とインド通貨ルピーの下落により、インドの粗リン酸輸入量が急減し、4～6月の国内DAP生産量が40%減の大幅に減ったからである。GST税率の引下げにより、DAP生産コストが約26ドル／トン削減できる。

- * インド国内DAP生産量の減少を補うため、国際市場から大量のDAPを購入した。7月だけで約90万トン、8月も約60万トンを輸入する予定で、4～8月のDAP輸入量が訳370万トンに達する。

一方、DAPの輸入安定化を図るため、インドの国営肥料商社NFL社は50万トンのDAP入札に3社の国際貿易商社を選定した。8～来年3月までに4回を分けて、毎回10～15万トン輸入するスケジュールを確定させた。

- * ベトナム通信社の報道によれば、2018年1～6月ベトナムの化学肥料輸入量が1.2%増の243万トン、金額が21.8%増の7.9億ドル。そのうち中国からの輸入量が約43.5%である。

- * 7月25日、インドMMTC社が尿素の国際入札を公表した。8月1日の締切で、購入予定数量が明記しなかった。関係者から応札価格がCFR270～280ドル／トンの場合は70～80万トン尿素を購入するだろうと推測される。

- * 8月3日、インドMMTC社の尿素入札結果が公開された。応札者が15社で、応札数量185万トン。そのうち最低応札価格はEastern Commodities社のCFR西海岸274.8ドル／トンとComzest社のCFR東海岸278.95ドル／トンである。CFR西海岸276ドル／トン未満、CFR東海岸280ドル／トン未満の応札数量が約55万トン、ほとんどイラ

ン産尿素である。MMTC 社はこの数量を全部契約する予定である。また、CFR 西海岸 276 ドル/トン以内、CFR 東海岸 280 ドル/トン以内に応札価格を下げるようにほかの応札者にも商談をかける動きがある。

大手各社の営業業績

- * ロシア Acron 社は 2018 年上半期の業績を公表した。アンモニア生産量が 2.1%増の 128.5 万トン、化学肥料生産量が 2%増の 335.8 万トン。その内訳は硝安が 5.2%減の 93.9 万トン、尿素が 16%増の 47.5 万トン、尿素硝安液肥が 34%増の 66.7 万トン、化成肥料が 8.4%減の 127.7 万トン。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアの Acron 社は 6 番目の尿素工場を完成し、試運転に入ったと発表した。それに合わせて 2100 万ルーブル（約 34 万ドル）を投資して、尿素硝安液肥（UAN）13 万トンの生産設備を新設し、尿素硝安液肥（UAN）の生産能力を 140 万トンに拡大する。
- * アルジェリアの Somiphos 社は来年から新しいりん鉱山の開発とりん安工場の新設を行うと発表した。新鉱山のりん鉱石生産能力 600 万トン、りん安工場の生産能力 300 万トンと計画している。完成時期と投資額は未発表。
- * BHP ビリトンは 2018 年上半期の営業報告速報を公表した。カナダ Saskatchewan 州の Jansen 加里プロジェクトにすでに投入した資金が 27 億ドル、工程進捗度が 79%に達し、井戸の掘削と採鉱用昇降機の設置がほぼ完了し、地表にある基礎施設と電気、水道、ガスの工事が進んでいる。2023 年生産開始の計画に変更なしという。
- * ロシアの EuroChem 社は Volgakaliy 加里鉱山の開発が完了し、下期から稼働し始め、年内 13~14 万トン塩化加里を生産すると発表した。また、昨年末完成した Usolskiy 加里鉱山の稼働も順調で、2018 年に 45 万トン塩化加里を生産する計画である。
- * オーストラリアの Salt Lake Potash 社は来年から LakeWay の鹹水を使って、硫酸加里の生産を開始すると発表した。LakeWay の鹹水に 14kg/m³ の硫酸加里を含んでいるという。
- * ベラルーシの Belaruskali 社は 2018 年 12 月から Darasinsky 加里鉱山の開発を開始すると発表した。Darasinsky 加里鉱山の設計生産能力は年間加里鉱石採掘量 800 万トン。完成後、現在の旧鉱山を閉鎖する予定。また、建設中の Petrikov 加里鉱山の進捗が順調で、2019 年 12 月完成し、稼働する。Petrikov 加里鉱山の生産能力が 100 万トン塩

化加里、そのうち大粒品が 60%を占める。初年度の 2020 年塩化加里生産量 30 万トン、2025 年に 100 万トンに達する。

その他

* 6 月 20 日、インド政府はアメリカ産りん酸に対する輸入関税を倍にして 20%とすることを発表し、当日発効する。これはアメリカがインド産鉄鋼とアルミニウム製品の輸入に関税をかけることに対する対応措置である。2016 年インドがアメリカ Nutrien 社から 25 万トンりん酸（P2O5 換算、以下同）を輸入し、2017 年も 17.2 万トンを輸入した。なお、アメリカから輸入したりん酸は主に化学品の製造に使用される。

* オーストラリア政府のアンチダンピング委員会の発表によれば、オーストラリアの CSBP 社、Orica Australia 社、Queensland Nitrates 社などの申請により、中国産、スウェーデン産及びタイ産硝安に対してアンチダンピング調査を開始する。調査は 2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日まで上記 3 か国から輸入された硝安に限定する。2017 年中国から輸入された硝安は金額で約 587 万ドルであったが、2018 年 1~4 月に約 1300 万ドルに急増した。

* 7 月 23 日、中国国営の国家鋳業投資有限公司（SDIC）はカナダの Nutrien 社と合意を達し、Nutrien 社が持つヨルダンの APC 社の 2,329 万株式を 5.02 億ドルで買収する。これにより、SDIC 社が APC 社の約 28%株式を持つ第 1 位の株主となる。

APC 社は世界第 8 位の加里メーカーで、ヨルダン政府から死海の鋳産物開発生産権利を独占する免許をもらい、塩化加里などを生産する。2017 年の塩化加里生産量 232 万トン、販売量 236 万トン。